

小倉百人一首 一覧表（歌順・決まり字あり）

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
わびぬれば 今はた同じ 難波なる	難波潟 短きあしの ふしの間も	住の江の 岸による波 よるさへや	ちはやぶる 神代も聞かず 竜田川	立ち別れ いなばの山の 峰に生ふる	君がため 春の野に出でて 若菜つむ	陸奥の しのぶもぢずり 誰ゆゑに	筑波嶺の 峰より落つる 男女の川	天つ風 雲の通ひ路 吹き閉ぢよ	わたの原 八十島かけて 漕ぎ出でぬと	これやこの 行くも帰るも 別れては	花の色は うつりにけりな いたづらに	わが庵は 都のたつみ しかぞ住む	天の原 ふりさけ見れば 春日なる	かささぎの 渡せる橋に おく霜の	奥山に 紅葉踏みわけ 鳴く鹿の	田子の浦に うち出でてみれば 白妙の	あしびきの 山鳥の尾の しだり尾の	春過ぎて 夏来にけらし 白妙の	秋の田の かりほの庵の 苫をあらみ
みをつくしても 逢はむとぞ思ふ	逢はでこの世を 過ぐしてよとや	夢の通ひ路 人目よくらむ	からくれなるに 水くくるとは	まつとし聞かば 今帰り来む	わが衣手に 雪は降りつつ	乱れそめにし われならなくに	恋ぞつもりて 淵となりぬる	をとめの姿 しばしとどめむ	人には告げよ 海人の釣舟	知るも知らぬも 逢坂の関	わが身世にふる ながめせしまに	世をうち山と 人はいふなり	三笠の山に 出でし月かも	白きを見れば 夜ぞふけにける	声きく時ぞ 秋は悲しき	富士の高嶺に 雪は降りつつ	長ながし夜を ひとりかも寝む	衣ほすてふ 天の香具山	わが衣手は 露にぬれつつ

小倉百人一首 一覧表（歌順・決まり字あり）

40	忍ぶれど 色に出でにけり わが恋は	ものや思ふと 人の問ふまで
39	浅茅生の 小野の篠原 忍ぶれど	あまりてなどか 人の恋しき
38	忘らるる 身をば思はず 誓ひてし	人の命の 惜しくもあるかな
37	白露に 風の吹きしく 秋の野は	つらぬきとめぬ 玉ぞ散りける
36	夏の夜は まだ宵ながら 明けぬるを	雲のいづこに 月宿るらむ
35	人はいさ 心も知らず ふるさとは	花ぞ昔の 香にほひける
34	誰をかも 知る人にせむ 高砂の	松も昔の 友ならなくに
33	ひさかたの 光のどけき 春の日に	静ず心なく 花の散るらむ
32	山川に 風のかけたる しがらみは	流れもあへぬ 紅葉なりけり
31	朝ぼらけ 有明の月と 見るまでに	吉野の里に 降れる白雪
30	有明の つれなく見えし 別れより	暁ばかり 憂きものはなし
29	心あてに 折らばや折らむ 初霜の	置きまどはせる 白菊の花
28	山里は 冬ぞ寂しき まさりける	人目も草も かれぬと思へば
27	みかの原 わきて流るる 泉川	いつ見きとてか 恋しかるらむ
26	小倉山 峰のもみぢ葉 心あらば	今ひとたびの みゆき待たなむ
25	名にし負はば 逢坂山の さねかつら	人に知られて くるよしもがな
24	このたびは 幣も取りあへず 手向山	紅葉の錦 神のまにまに
23	月見れば ちぢにものこそ 悲しけれ	わが身ひとつの 秋にはあらねど
22	吹くからに 秋の草木の しをるれば	むべ山風を 嵐と言ふらむ
21	今来むと 言ひしばかりに 長月の	有明の月を 待ち出でてつるかな

小倉百人一首 一覧表（歌順・決まり字あり）

60	69	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41
大江山 いく野の道の 遠ければ	やすらはで 寝なましものを 小夜更けて	有馬山 猪名の笹原 風吹けば	めぐり逢ひて 見しやそれとも わかぬ間に	あらざらむ この世のほかの 思ひ出に	滝の音は 絶えて久しく なりぬれど	忘れじの 行く末までは かたければ	嘆きつつ ひとり寝る夜の 明くる間は	明けぬれば 暮るるものとは 知りながら	かくとだに えやは伊吹の さしも草	君がため 惜しからざりし 命さへ	みかきもり 衛士のたく火の 夜は燃え	風をいたみ 岩うつ波の おのれのみ	八重むぐら 茂れる宿の 寂しきに	由良のとを 渡る舟人 かちを絶え	あはれとも いふべき人は 思ほえて	逢ふことの 絶えてしなくは なかなか	逢ひ見ての 後の心に くらぶれば	契りきな かたみに袖を しぼりつつ	恋すてふ わが名はまだき 立ちにけり
まだふみも見ず 天の橋立	かたぶくまでの 月を見しかな	いでそよ人を 忘れやはする	雲隠れにし 夜半の月かな	今ひとたびの 逢ふこともがな	名こそ流れて なほ聞こえけれ	今日を限りの 命ともがな	いかに久しき ものとかは知る	なほ恨めしき 朝ぼらけかな	さしも知らじな 燃ゆる思ひを	長くもがなと 思ひけるかな	昼は消えつつ ものをこそ思へ	くだけてものを 思ふころかな	人こそ見えね 秋は来にけり	行く方も知らぬ 恋の道かな	身のいたづらに なりぬべきかな	人も身をも 恨みざらまし	昔はものを 思はざりけり	末の松山 波越さじとは	人知れずこそ 思ひそめしか

小倉百人一首 一覧表 (歌順・決まり字あり)

80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61
<p>長<sup>なが</sup>からむ<sup>ん</sup> 心<sup>こころ</sup>も知らず<sup>し</sup> 黒<sup>くろ</sup>髪<sup>かみ</sup>の</p>	<p>秋<sup>あき</sup>風<sup>かぜ</sup>に たなびく<sup>くも</sup>雲<sup>ぐも</sup>の 絶<sup>た</sup>え間<sup>ま</sup>より</p>	<p>淡<sup>あわ</sup>路<sup>じ</sup>島<sup>しま</sup> 通<sup>か</sup>ふ千<sup>ち</sup>鳥<sup>どり</sup>の 鳴<sup>な</sup>く声<sup>こえ</sup>に</p>	<p>瀬<sup>せ</sup>を早<sup>はや</sup>み 岩<sup>いわ</sup>にせか<sup>る</sup>る 滝<sup>たき</sup>川<sup>がわ</sup>の</p>	<p>わたの原<sup>はら</sup> 漕<sup>こ</sup>ぎ出<sup>い</sup>でて見<sup>み</sup>れば ひさかたの</p>	<p>契<sup>ちぎ</sup>りおきし させもが露<sup>つゆ</sup>を 命<sup>いのち</sup>にて</p>	<p>憂<sup>う</sup>かりける 人<sup>ひと</sup>を初<sup>はつ</sup>瀬<sup>せ</sup>の 山<sup>やま</sup>おろしよ</p>	<p>高<sup>たか</sup>砂<sup>さご</sup>の 尾<sup>お</sup>の上<sup>え</sup>の桜<sup>さくら</sup> 咲<sup>さ</sup>きにけり</p>	<p>音<sup>おと</sup>に聞<sup>き</sup>く 高<sup>たか</sup>師<sup>し</sup>の浜<sup>はま</sup>の あだ波<sup>なみ</sup>は</p>	<p>夕<sup>ゆう</sup>されば 門<sup>かど</sup>田<sup>た</sup>の稲<sup>いな</sup>葉<sup>ば</sup> おとづ<sup>ず</sup>れて</p>	<p>寂<sup>さび</sup>しさに 宿<sup>やど</sup>を立<sup>た</sup>ち出<sup>い</sup>でて ながむれば</p>	<p>嵐<sup>あらし</sup>吹<sup>ふ</sup>く 三<sup>み</sup>室<sup>むろ</sup>の山<sup>やま</sup>の もみぢ葉<sup>は</sup>は</p>	<p>心<sup>こころ</sup>にも あらで憂<sup>う</sup>き世<sup>よ</sup>に ながらへば</p>	<p>春<sup>はる</sup>の夜<sup>よ</sup>の 夢<sup>ゆめ</sup>ばかりなる 手<sup>た</sup>枕<sup>まくら</sup>に</p>	<p>もろともに あはれと思<sup>おも</sup>へ 山<sup>やま</sup>桜<sup>くら</sup></p>	<p>恨<sup>うら</sup>みわび ほさぬ袖<sup>そで</sup>だに あるものを</p>	<p>朝<sup>あさ</sup>ほらけ 宇<sup>う</sup>治<sup>じ</sup>の川<sup>かわ</sup>霧<sup>ぎり</sup> たえだえに</p>	<p>今<sup>いま</sup>はただ 思<sup>おも</sup>ひ絶<sup>いた</sup>えなむ とばかりを</p>	<p>夜<sup>よ</sup>をこめて 鳥<sup>とり</sup>の空<sup>そら</sup>音<sup>ね</sup>は はかるとも</p>	<p>いにしへの 奈<sup>なら</sup>良<sup>みやこ</sup>の都<sup>こ</sup>の 八<sup>や</sup>重<sup>むら</sup>桜<sup>くら</sup></p>
<p>乱<sup>みだ</sup>れて今<sup>け</sup>朝<sup>さ</sup>は 物<sup>もの</sup>をこそ思<sup>おも</sup>へ</p>	<p>もれ出<sup>い</sup>づる月<sup>つき</sup>の 影<sup>かげ</sup>のさやけさ</p>	<p>幾<sup>いく</sup>夜<sup>よ</sup>寝<sup>ね</sup>覚<sup>ざ</sup>めぬ 須<sup>す</sup>磨<sup>ま</sup>の関<sup>せき</sup>守<sup>もり</sup></p>	<p>われても末<sup>すえ</sup>に 逢<sup>あ</sup>わん 逢<sup>おも</sup>う</p>	<p>雲<sup>くも</sup>居<sup>い</sup>にまがふ 沖<sup>おき</sup>つ白<sup>しら</sup>波<sup>なみ</sup></p>	<p>あはれ今<sup>こと</sup>年の 秋<sup>あき</sup>もいぬめり</p>	<p>激<sup>はげ</sup>しかれとは 祈<sup>いの</sup>らぬものを</p>	<p>外<sup>と</sup>山<sup>やま</sup>の霞<sup>かすみ</sup> 立<sup>た</sup>たずもあらなむ</p>	<p>かけじや袖<sup>そで</sup>の ぬれもこそすれ</p>	<p>蘆<sup>あし</sup>のまろやに 秋<sup>あき</sup>風<sup>かぜ</sup>ぞ吹<sup>ふ</sup>く</p>	<p>いづこも同じ 秋<sup>あき</sup>の夕<sup>ゆう</sup>暮<sup>ぐ</sup>れ</p>	<p>竜<sup>たつた</sup>田<sup>た</sup>の川<sup>かわ</sup>の 錦<sup>にしき</sup>なりけり</p>	<p>恋<sup>こい</sup>しかるべき 夜<sup>よ</sup>半<sup>わ</sup>の月<sup>つき</sup>かな</p>	<p>かひなく立<sup>た</sup>たむ 名<sup>な</sup>こそ惜<sup>お</sup>しけれ</p>	<p>花<sup>はな</sup>よりほかに 知<sup>し</sup>る人<sup>ひと</sup>もなし</p>	<p>恋<sup>こい</sup>に朽<sup>く</sup>ちなむ 名<sup>な</sup>こそ惜<sup>お</sup>しけれ</p>	<p>あはれわたる 瀬<sup>せ</sup>々<sup>ぜ</sup>の網<sup>あじろ</sup>代<sup>ろぎ</sup>木</p>	<p>人<sup>ひと</sup>づてならで 言<sup>い</sup>ふよしもがな</p>	<p>よに逢<sup>おう</sup>坂<sup>さか</sup>の 関<sup>せき</sup>は許<sup>ゆる</sup>さじ</p>	<p>けふ九<sup>きゅう</sup>重<sup>この</sup>に にほひぬるかな</p>

小倉百人一首 一覧表 (歌順・決まり字あり)

100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81
<p>ももしきや 古き軒端の しのぶにも</p>	<p>人もをし 人も恨めし あぢきなく</p>	<p>風そよぐ ならの小川の 夕暮れは</p>	<p>来ぬ人を まつほの浦の 夕なぎに</p>	<p>花さそふ 嵐の庭の 雪ならで</p>	<p>おほけなく 憂き世の民に おほふかな</p>	<p>み吉野の 山の秋風 小夜ふけて</p>	<p>世の中は 常にもがもな 渚漕ぐ</p>	<p>わが袖は 潮干に見えぬ 沖の石の</p>	<p>きりぎりす 鳴くや霜夜の さむしろに</p>	<p>見せばやな 雄島のあまの 袖だにも</p>	<p>玉の緒よ 絶えなば絶えね ながらへば</p>	<p>難波江の 蘆のかりねの ひとよゆゑ</p>	<p>村雨の 露もまだひぬ 槇の葉に</p>	<p>嘆けとて 月やは物を 思はする</p>	<p>夜もすがら 物思ふころは 明けやらぬ</p>	<p>長らへば またこのごろや しのばれむ</p>	<p>世の中よ 道こそなけれ 思ひ入る</p>	<p>思ひわび さても命は あるものを</p>	<p>ほととぎす 鳴きつる方を ながむれば</p>
<p>なほあまりある 昔なりけり</p>	<p>世を思ふゆゑに もの思ふ身は</p>	<p>みそぎぞ夏の しるしなりける</p>	<p>焼くや藻塩の 身もこがれつつ</p>	<p>ふりゆくものは わが身なりけり</p>	<p>わが立つ杣に 墨染めの袖</p>	<p>ふるさと寒く 衣打つなり</p>	<p>海人の小舟の 綱手かなしも</p>	<p>人こそ知らね 乾く間もなし</p>	<p>衣片敷き ひとりかも寝む</p>	<p>濡れにぞ濡れし 色はかはらず</p>	<p>忍ぶることの 弱りもぞする</p>	<p>みをつくしてや 恋ひわたるべき</p>	<p>霧立ちのぼる 秋の夕暮れ</p>	<p>かこち顔なる わが涙かな</p>	<p>閨のひまさへ つれなかりけり</p>	<p>憂しと見し世ぞ 今は恋しき</p>	<p>山の奥にも 鹿ぞ鳴くなる</p>	<p>憂きに堪へぬは 涙なりけり</p>	<p>ただ有明の 月ぞ残れる</p>